

コンテンポラリーダンスの振付家の役割って案外知られていない。「振り付け」に留まらず、作家であり、演出家であり、思想家であり、冒険家であり……。ダンスは、時には社会を察知し、真実を探るメディアでもあるのだ！(※)
 「Choreographers」は、そんな振付家にもつわるあれこれを、上演&トークを通して掘り下げるシリーズです。第二弾は、2020年にスタートした「KYOTO CHOREOGRAPHY AWARD (KCA) 2020」の受賞振付家3名をフィーチャー、旬の女性振付家による3つ全く世界観の異なる作品を二挙上演します。ロームシアター京都・サウスホールでの再演にあたり、出演者・演出などのリレーインタビューにチャレンジします。コンテンポラリーダンスに初めて触れる方も、ぜひトークと合わせてご覧ください。

「……何が起きていいるか」という「事実」ではなく、社会の底流で起っている「真実」を探る。ダンスの身体で「真実」をメディアであり、自らの身体の本質は、メディアリズムでもあるのだ。

2021年
4月1日付
朝日新聞
「atsumi Stage」
編集委員・吉田純子(ママ)

Choreographers 2021

KYOTO CHOREOGRAPHY AWARD 2020 受賞者公演

コンテンポラリーダンスの「振付家」に光をあてる、JCDNの新シリーズ第二弾。

Choreographers 2021
次代の振付家によるダンス作品
トリプルビル & トーク

2021年12月30日(木) 17:30開演
プレトーク 16:30~17:15 (16:15ロビー開場)

会場：ロームシアター 京都 サウスホール

https://choreographers.jcdn.org

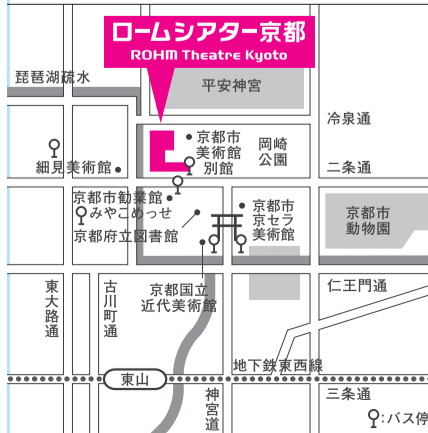
※料金指定席は、振付家インタビュー、プロフィール、フォトギャラリーなどをご覧いただけます。

【料金】
 (全席指定)
 ●前売 一般：2700円
 ●ユース(U25)：障がい者(介助者1名も同料金/要手帳)：2000円
 ●高校生以下：1000円
 ●ペア割：5000円(前売のみ)
 ※当日：300円増
 ※Club会員、京響友の会、JCDN会員：前売一般200円引 ※未就学児入場不可(託児有)
 ※プレトークは、要公演チケット提示
 [取扱]ロームシアター京都
 オンラインチケット：https://www.e-get.jp/kyoto/pt/
 チケットカウンター：075-746-3201(窓口・電話/10:00-17:00)
 ※12/29休・臨時休館日有)
 ※12/29はロームシアターのチケットカウンターが休業日になります。オンラインにてご購入ください。
 ※JCDN会員チケットは、開会先までお申込みください。
 [お問合せ] NPO法人ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク(JCDN)
 Tel: 075-361-4685(平日11:00-18:00) Mail: info@jcdn.org
 Web: jcdn-web.org/

【踊る託児所】= 託児の時間、お子さんと一緒にダンスのワークショップを行います。誰でもできる簡単な動きの遊びや、絵を画いたり……。動く事がダンスが苦手なお子さんも、その場にいるだけで大丈夫。無理のないように、楽しくゆるやかに過ごします。
 ナビゲーター：鈴木英理子、吉永初美(保育士資格保有)/親子のコミュニケーショングループ「チチカカコ」
 時間：16:00受付開始~19:30終演(予定)まで 定員：10名程度
 利用料：2,000円/お子様1名(3歳以上)・要予約。/切：12/28まで。
 申込方法：http://bit.ly/31xo5Yyにてお申込みください。

【スタッフ】
 テクニカルディレクター：関秀哉(株 RYU)
 舞台監督：浜村修司 照明：伊藤雅一(株 RYU)
 音響：高田文尊(株ソルサウンドサービス)
 宣伝美術：西岡勉
 ウェブサイトディレクション・デザイン：creative unit DOR
 プロデューサー：佐東龍一
 ディレクター：神前沙織 広報・制作：松岡真弥・清水幸代

ロームシアター京都
ROHM Theatre Kyoto



●京都市営地下鉄東西線「東山」駅1番出口より徒歩約10分
 ●市バス32-46系統「岡崎公園」ロームシアター京都・みよこめっせ前「下車すく」
 ●市バス5-86系統「岡崎公園 美術館-平安神宮前」下車徒歩約5分
 ●市バス31-201・202・203・206系統「東山二条-岡崎公園口」下車徒歩約5分



Choreographers 2021
次代の振付家によるダンス作品
トリプルビル & トーク

2021年12月30日(木) 17:30開演
プレトーク 16:30~17:15 (16:15ロビー開場)

会場：ロームシアター 京都 サウスホール

松木萌「Tartarus」
*KCA奨励賞

下島礼紗「SKY」
*KCA京都賞

横山彰乃「海底に雪」
*KCA奨励賞

石井達朗(舞踊評論家) × 吉田純子(朝日新聞社編集委員)

「社会とコンテンポラリーダンス作品との関係!」

主催 NPO法人ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク(JCDN)
 [後援]京都市、京都市、京都市教育委員会、文化庁「ARTS for the future!」補助対象事業

◎公演前プレトーク



JCDN
Japan Contemporary Dance Network

「総括」の名の下に、同志をリンチ殺害した連合赤軍事件。この事件から

私の勝手な”イデオロギー”の創作。

- 振付・構成・演出—下島礼紗
- 出演—伊藤勇太、小泉沙織、中澤亜紀、志村映美、秋田満衣、平田祐香、水口結、水澤茜、宮本蓮生、木頃あかね、下島礼紗
- 制作支援—横浜赤レンガ倉庫号館 横浜ダンスコレクション

下島礼紗(29)は、2013年にカンパニー「タタコ」を設立。処女作から20代の女性らからかモチーフで、強烈なメッセージを放つ作品を発表。上演作品「タタコ」は、オウム事件(1988)・連合赤軍事件(1971)など、下島自身が生まれ、よりずっと前に起きた日本の事件から、集団による狂気を描いた作品で、これまで横浜、福岡、秋田、韓国、香港で上演を重ねている。事件を正面から扱う振付家が多くはない中で、ダンスが単に美しさを踊りの技術で魅せるだけの芸術ではなく、観客に対し社会問題を問いつける芸術であり、メディアでもあることを、鮮やかに思いつき出される。今という時代だからこそ、何度でも上演し、特に過去を知らない若い世代に見てほしい作品。



Shimajima Reisa

下島礼紗

タタコ (東京)

気がつけばそこに同調圧力という静かな暴力に満ちた現代の風景が広がっている。冷やかな洗脳の情景と人間味あふれる滑稽なやりとりが、矛盾なく同居する。ダンスでなければ描けない世界だ。

吉田純子「朝日新聞」
社編集委員(2021年4月1日付朝日新聞「around Stage」より)

「伸びやかなソロ。クラシックなバレエ、ロボットのよらかな機械的な動き、日常的な動作、キャバレー、お経、といったさまざまな音楽と体の動かし方が一致しては、ずらされる。」

……吉田純子
十和田市現代美術館館長

ゆつくりと
急ぐ
歯車の
静々と迫る
闇へ。
誕生の起源、
生きること、
生きていること。



Matsuki Moe

Tartarus

(京都)

松木萌

- 構成・演出・振付—松木萌
- 出演—増川建太、松木萌
- 京都芸術センター制作支援事業

松木萌(35)は、京都造形芸術大学舞台芸術学科5期卒業後、2008年より、はなもとゆかのテオオで自身の作品を発表。2021年秋には京都芸術センターの「Co-program」にて新作を上演するなど、関西発の期待の新鋭だ。上演作品「Tartarus」は「Tartarus(タルタロス)」「ギリシャ神話における奈落・地獄の神をモチーフに、真暗な闇の中の男と女の姿を淡々と紡ぐ作品。生と死、愛といった普遍的なテーマを情緒的でも物語でもなく、現実と非現実を行き来するかのような作風で、多くの観客の共感を呼び起こした。ローシアターでの再演にあたり、「Tartarus」の間に私たちが誘う男性キャストを新たに迎えて、

雪に海底

yokoyama ayano



よく知っている底から
水面を見上げ
知らない水平線を
思い浮かべず
音の届く先まで睡り
どこかの
花を想う

- 振付・演出—横山彰乃
- 出演—後藤ゆう、吉野菜々子、横山彰乃、斎木穂乃香
- 助成—公益財団法人セゾン文化財団

横山彰乃は、音楽とリンクした緻密な振付や、下島と対照的な作風だ。新たな身体感覚の動きを追求した。見た目にもポップな振付に定評があり、個人ではMVや音楽ライブの振付などショービジネスもこなす。2016年にカンパニー「lal banshees」を立ち上げ、2021年度セゾン文化財団セゾンプレミアとして、新作に向けたワークを行っている。卓越した空間演出と振付が、ゴージャスで華やかな現実にはない想像世界に観客を導く。初めてダンスを観る方にも親しみやすく、彼女の作品を通して、子どもにも大人にも振付の奥深さを素直に体感してほしい。

ナラティブなドラマではなく、動きと演出の緩急によって、つまり言語化されない領域の魅力によって観客の心を掴む。ダンスの魅力の本質を堪能した。」

……乗越たかお
作家・ヤサクレ舞踊評論家(Twitterより)

横山彰乃

lal banshees (埼玉/東京)